

ベトナム情報レポート（2023年4月30日）

ベトナムビジネスサポートデスク
（株式会社NCネットワーク）

【2023年第1四半期のベトナム経済指標】

2023年第1四半期のベトナム経済は、世界的な需要低迷の影響を受け、低い成長率となりました。1～3月のGDP成長率は前年同期比3.32%のプラス成長で、2011年～2023年の第1四半期の成長率で見ると、2020年（3.21%）に次ぐ低い比率でした。部門別では、工業が0.82%減で、2011年以降最も大きな落ち込みとなり、製造・加工業は0.37%減、鉱業は5.6%減でした。これまでベトナム経済を牽引する主力産業であった鉱工業の低迷に対して、内需の回復によってサービス産業が盛り返しを見せました。宿泊・飲食は25.98%増、卸売・小売8.09%増、金融・保険7.65%増、運輸・倉庫6.85%増でした。

1～3月の消費者物価指数（CPI）は、前年同期比4.18%の増加でした。食品やエネルギーなどの変動の大きい品目を除いたコアインフレ率は5.01%増と高い水準にとどまり、依然として物価上昇が続いていることがわかります。

鉱工業指数（IIP）は前年同期比2.24%の減少で、そのうち製造加工業では食品・飲料がプラス成長であるものの、電子機器・コンピューター・光学製品は6%減、車両生産8.2%減、二輪車12%減、縫製6.5%減、製靴4%減などと、全体としてマイナス成長が目立つ結果となりました。電子機器類の低成長は、サムスン電子によるスマートフォン減産が影響しているものとみられます。1～3月の貿易収支は、輸入が前年同期比14.7%減の751億米ドル、輸出は同11.9%減の791.7億米ドルで、約40億米ドルの貿易黒字でした。

2023年年始から3月20日までの外国直接投資（FDI）は、新規案件が30.2億米ドル（前年同期比6%減）、調整案件が12.1億米ドル（71%減）、出資・株式取得が16.3億米ドル（26%減）と軒並み前年同期を下回り、総登録投資額は38.8%減の54.5億米ドルでした。分野別では製造・加工業が70%（25%減）を占め、続いて前年同期から大きく落ち込んだ不動産が14.1%（71.6%減）と続きました。国別では、1位シンガポール（16.9億米ドル）、2位中国（5.5億米ドル）、3位台湾（4.7億米ドル）でした。4位の韓国は件数ではトップとなり、日本は7位でした。